

ESMPRO/JMSS Ver6.0 ユーティリティ

ユーザーズマニュアル

は し が き

本書は、JMSS ユーティリティで提供しているコマンドについて説明しています。
本書の構成は次のとおりです。

	タイトル	内 容
	概要	JMSS ユーティリティの概要について
	コマンドリファレンス	各コマンドのリファレンスについて
	エラーコード一覧	コマンドで返却されるエラーコードについて

なお、セットアップ方法については、セットアップカードを参照してください。

2001 年 7 月 初 版

備考

(1)本書はMicrosoft® Windows NT® 4.0およびMicrosoft® Windows® 2000に対応しています。

(2)Microsoft は米国Microsoft Corporationの登録商標です。

Windows、Windows NTは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Windows NT 4.0はMicrosoft® Windows NT® Server 4.0、Microsoft® Windows NT® Workstation 4.0の略称です。
Windows 2000はMicrosoft® Windows® 2000 Advanced Server、Microsoft® Windows® 2000 Server、
Microsoft® Windows® 2000 Professionalの略称です。
JMSSはNECソフト株式会社の登録商標です。
その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

はしがき	i
目次	ii

第 1 章 概要 1

1.1 JMSS ユーティリティとは	1
1.2 提供コマンド群	1
1.3 導入効果	2
1.4 適用範囲	2
1.5 製品構成	2

第 2 章 コマンドリファレンス..... 5

2.1 コマンド一覧	5
2.2 BAT 強化コマンド	7
JECODE.....	7
JGetDay	8
JGetWeek	9
JJCMD.....	10
JShowDlg	11
JShutd.....	13
JSleep.....	14
JVbCode	15
JWaitT	16
2.4 JMSS サービス関連コマンド.....	17
JChkSrv	17
JCtlSrv	19
2.3 JMSS 環境関連コマンド	20
JChgEnvL	20
JChgEnvS	22

JChgQue.....	23
JChgSrv.....	24
JChgStd.....	25
JQueue.....	26
JScrEnv.....	28
JVer.....	29
2.5 ジョブ情報関連コマンド.....	30
JClrLog.....	30
JCsvLog.....	31
JGetStd.....	33
2.6 スケジュール関連コマンド.....	34
JChgEvt.....	34
JChgEvt2.....	35
JChgSch.....	36
JChgSch2.....	38
JCsvSch.....	40
JDispCal.....	42
JDispEvt.....	43
JDispSch.....	45
JSwEvt.....	47
JSwEvt2.....	48
2.7 JMenu 関連コマンド.....	49
JChgJmn.....	49
JJmnEnv.....	51
2.7 ジョブネット関連コマンド.....	52
JChgJnt.....	52
2.8 JMSS セキュリティ関連コマンド.....	54
JChgSec.....	54
第3章 エラーコード一覧.....	57

第1章 概要

1.1 JMSS ユーティリティとは

JMSS ユーティリティは、JMSSから利用できるコマンド群を提供しています。
スケジュール・カレンダーデータの自動配布や、キューの開閉・JMSSセキュリティ等の動的変更が可能となります。

1.2 提供コマンド群

BAT強化コマンド

BATコマンドを機能強化するコマンドを提供します。

サービス関連コマンド

サービス（JMSS以外のサービスを含む）の制御を行うコマンドを提供します。

JMSS環境関連コマンド

JMSSの動作環境を制御/出力を行うコマンドを提供します。

JMSSジョブ情報関連コマンド

JMSSのジョブ情報の制御/出力を行うコマンドを提供します。

JMSSスケジュール関連コマンド

JMSSのスケジュール情報の制御/入出力を行うコマンドを提供します。

JMSSメニュー関連コマンド

JMSSのメニューファイルおよびメニュー環境情報の制御を行うコマンドを提供します。

JMSSジョブネット関連コマンド

JMSSのジョブネットファイルの制御を行うコマンドを提供します。

JMSSセキュリティ関連コマンド

JMSSのセキュリティ情報の制御/出力を行うコマンドを提供します。

1.3 導入効果

- ・BAT強化コマンドが提供されることにより、BATファイル内で柔軟な処理が記述できます。
- ・BATファイルやCUI等からJMSSの各機能が利用できます。
- ・JMSSのスケジュール機能と連携すれば、JMSSの各環境（キューの開閉状態やJMSSセキュリティ等）を動的に変更できます。
- ・スケジュールデータの自動配布が可能になります。

1.4 適用範囲

JMSS ユーティリティは、JMSSVer6.xがインストールされているマシンでのみ動作します。

1.5 製品構成

JTOOLディレクトリ

JTool.txt

DeIsLx.isu

追加説明

インストールログファイル

JTOOL¥BINディレクトリ

JChgEnvL.exe	JLook サービス環境変更コマンド
JChgEnvS.exe	JSchedule サービス環境変更コマンド
JChgEvt.exe	イベント起動即時実行コマンド (ID指定)
JChgEvt2.exe	イベント起動即時実行コマンド (業務名指定)
JChgJmn.exe	JMenu データ一括置換コマンド
JChgJnt.exe	ジョブネットファイル一括置換コマンド
JChgQue.exe	キュー & 稼動マシン設定コマンド
JChgSch.exe	スケジューラ時変更コマンド (ID指定)
JChgSch2.exe	スケジューラ時変更コマンド (業務名指定)
JChgSec.exe	JMSSセキュリティ設定コマンド
JChgSrv.exe	JMSSサーバ名変更コマンド
JChgStd.exe	標準出力保存先ディレクトリ変更コマンド
JChkSrv.exe	サービス監視コマンド
JClrLog.exe	ログクリアコマンド
JCsvLog.exe	JLook ログCSV出力コマンド
JCsvSch.exe	スケジューラ関連データCSV入出力コマンド
JCtlSrv.exe	サービス制御コマンド
JDispCal.exe	カレンダー表示コマンド
JDispEvt.exe	イベント起動データ表示コマンド
JDispSch.exe	スケジューラデータ表示コマンド
JECode.exe	終了コード指定コマンド
JGetDay.exe	日付返却コマンド
JGetStd.exe	標準出力内容表示コマンド
JGetWeek.exe	週返却コマンド
JJCmd.exe	繰返し指定可能ジョブ投入コマンド
JJmnEnv.exe	JMenu環境設定コマンド
JMgcLib6.dll	JMSSユーティリティ共通ダイナミックリンクライブラリ
JQueue.exe	ジョブキュー情報表示 / 設定コマンド
JScrEnv.exe	拡張レジストリパラメータ変更コマンド
JShowDlg.exe	任意メッセージ表示コマンド
JShutd.exe	Shutdown コマンド
JSleep.exe	スリープコマンド
JSwEvt.exe	イベント起動有効フラグ設定コマンド (ID指定)
JSwEvt2.exe	イベント起動有効フラグ設定コマンド (業務名指定)
JVbCode.bas	VB終了コード指定コマンド用VBモジュール
JVbCode.exe	VBAP終了コード指定コマンド
JVer.exe	JMSS製品情報表示コマンド
JWaitT.exe	指定時刻待ちコマンド

JTOOL¥SAMPLEディレクトリ

JChgEnvL.sam	JLookサービス環境変更コマンドサンプル
JChgEnvS.sam	JScheduleサービス環境変更コマンドサンプル
JChgEvt.sam	イベント起動即時実行コマンド（ID指定）サンプル
JChgEvt2.sam	イベント起動即時実行コマンド（業務名指定）サンプル
JChgJmn.sam	JMenuデータ一括置換コマンドサンプル
JChgJnt.sam	ジョブネットファイル一括置換コマンドサンプル
JChgQue.sam	キュー＆稼動マシン設定コマンドサンプル
JChgSch.sam	スケジューラ一時変更コマンド（ID指定）サンプル
JChgSch2.sam	スケジューラ一時変更コマンド（業務名指定）サンプル
JChgSec.sam	JMSSセキュリティ設定コマンドサンプル
JChgSrv.sam	JMSSサーバ名変更コマンドサンプル
JChgStd.sam	標準出力保存先ディレクトリ変更コマンドサンプル
JChkSrv.sam	サービス監視コマンドサンプル
JClrLog.sam	ログクリアコマンドサンプル
JCsvLog.sam	JLookログCSV出力コマンドサンプル
JCsvSch.sam	スケジューラ関連データCSV入出力コマンドサンプル
JCtlSrv.sam	サービス制御コマンドサンプル
JDispCal.sam	カレンダー表示コマンドサンプル
JDispEvt.sam	イベント起動データ表示コマンドサンプル
JDispSch.sam	スケジューラデータ表示コマンドサンプル
JECode.sam	終了コード指定コマンドサンプル
JGetDay.sam	日付返却コマンドサンプル
JGetStd.sam	標準出力内容表示コマンドサンプル
JGetWeek.sam	週返却コマンドサンプル
JJCmd.sam	繰返し指定可能ジョブ投入コマンドサンプル
JJmnEnv.sam	JMenu環境設定コマンドサンプル
JQueue.sam	ジョブキュー情報表示／設定コマンドサンプル
JScrEnv.sam	拡張レジストリパラメータ変更コマンドサンプル
JShowDlg.sam	任意メッセージ表示コマンドサンプル
JShutd.sam	Shutdownコマンドサンプル
JSleep.sam	スリープコマンドサンプル
JSwEvt.sam	イベント起動有効フラグ設定コマンド（ID指定）サンプル
JSwEvt2.sam	イベント起動有効フラグ設定コマンド（業務名指定）サンプル
JVbCode.sam	VBAP終了コード指定コマンドサンプル
JVbCodet.frm	VBAP終了コード指定コマンドサンプル(VB)
JVer.sam	JMSS製品情報表示コマンドサンプル
JWaitT.sam	指定時刻待ちコマンド

第2章 コマンドリファレンス

2.1 コマンド一覧

BAT強化コマンド

JECode	指定の値で終了します
JGetDay	終了値として今日の日付を返却します
JGetWeek	終了値として今日の曜日を返却します
JJCmd	JMSSへジョブを投入します（繰返し指定あり）
JShowDlg	任意のメッセージをダイアログに表示します
JShutd	マシンのシャットダウンを行います
JSleep	指定時間スリープします
JVbCode	Visual Basicで作成したジョブから終了値を指定可能にします
JWaitT	指定された時刻まで待ち合わせします

サービス関連コマンド

JChkSrv	サービス（JMSS関連サービスを含む）の状態を監視します
JCtlSrv	サービス（JMSS関連サービスを含む）の実行を制御します

JMSS環境関連コマンド

JChgEnvL	JLookサービス関連の環境を表示/変更します
JChgEnvS	JScheduleサービス関連の環境を表示/変更します
JChgQue	ジョブキューおよび稼動マシンを登録/削除します
JChgSrv	JMSS内に設定されているJMSSサーバ名を変更します
JChgStd	標準出力保存先ディレクトリを変更し、現在保存されているファイルも移動します
JQueue	ジョブキュー情報を表示/変更します
JScrEnv	画面上から変更できないJMSS環境を変更します
JVer	JMSS製品情報、キュー情報を表示します

JMSSジョブ情報関連コマンド

JClrLog	JLookログのクリア、標準出力保存先ファイルを削除します
JCsvLog	JLookログをCSV形式で出力します
JGetStd	ジョブの標準出力の内容を表示します

JMSSスケジュール関連コマンド

JChgEvt	IDで指定したイベント起動ジョブを即実行します
JChgEvt2	業務名で指定したイベント起動ジョブを即時実行します
JChgSch	IDで指定したスケジュールジョブを一時変更します
JChgSch2	業務名で指定したスケジュールジョブを一時変更します
JCsvSch	スケジュール/カレンダー/イベント起動データをCSV形式で入出力します
JDispCal	カレンダーを表示します
JDispEvt	イベント起動ジョブを表示します
JDispSch	スケジュールジョブを表示します
JSwEvt	IDで指定したイベント起動ジョブの有効/無効を設定します
JswEvt2	業務名で指定したイベント起動ジョブの有効/無効を設定します

JMSSメニュー関連コマンド

JChgJmn	メニューファイル内の文字列を一括置換します
JJmnEnv	JMenu環境を設定します

JMSSジョブネット関連コマンド

JChgJnt	ジョブネットファイル内の文字列を一括置換します
---------	-------------------------

JMSSセキュリティ関連コマンド

JChgSec	JMSSのセキュリティを参照/変更します
---------	----------------------

2.2 BAT 強化コマンド

JECODE

JECODE.exe は指定された値で終了します。

構文 JECODE.exe 終了コード

パラメータ 終了コード

終了コードとする値を10進数または16進数で指定します。

最初に”0x” が指定された場合は16進数とみなし、それ以外の場合は10進数とみなします。

<値形式> 0xN | N

終了コード 正常終了 パラメータ指定された値を返却します。
異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： copyコマンドが正常に終了した場合は終了コードが”1”となり、異常終了した場合は終了コードが”10”(0xA)となります。

JECODE.bat

```
jcmod /o cmd.exe /c copy c.dat d.dat
```

```
IF NOT ERRORLEVEL 0 JECODE.exe 10 & EXIT
```

```
JECODE.exe 1
```

JGetDay

JGetDay

JGetDay.exe は今日の日付を返却します。

構文 JGetDay.exe [日付種別]

パラメータ 日付種別

日付種別として以下のいずれかを指定します。

省略時は日を返却します。

/d 日を返却します。

/m 月を返却します。

/y 年を返却します。

終了コード 正常終了 日付を返却します。

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： 本日が20日のときにのみ、処理Job.exeを実行します。

JGetDay.bat

JGetDay.exe

IF %ERRORLEVEL% EQU 20 GOTO 20day

GOTO end

:20day

Job.exe

:end

EXIT

JGetWeek

JGetWeek.exe は曜日を数字で返却します。

構文 JGetWeek.exe

パラメータ なし

終了コード 正常終了 以下のいずれかの値を返却します。

- 0 日曜日です。
- 1 月曜日です。
- 2 火曜日です。
- 3 水曜日です。
- 4 木曜日です。
- 5 金曜日です。
- 6 土曜日です。

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： 本日が月曜日のときにのみ、処理Job.exe を実行します。

```
JGetWeek.bat
JGetWeek.exe
IF %ERRORLEVEL% EQU 1 GOTO monday
GOTO end
:monday
Job.exe
:end
EXIT
```

JJCmd

JJCmd.exe は JMSS ヘジョブを投入します。

構文 JJCmd.exe [/n[owait]] [/q[ueue]: ジョブキュー名]
 [/p[r]iority]:優先順位] [/w[ork]:実行時ディレクトリ名]
 [/t[itle]: 業務名] [/o[utput][: ファイル名]]
 [/a[ppend][: ファイル名]] [/v[erbose]]
 [/x:繰返し間隔, 終了方法 ,N]]
 [/l[imit]:最大実行時間] [/c[ode]:ファイル名]
 ジョブ名 [パラメータ]

パラメータ /x: 繰返し間隔, 終了方法 [,N]
 JMSS/JScheduleの繰返しジョブと同じ動作を行います。
 繰返しの終了方法として、回数か時刻を指定できます。
 繰返し間隔
 繰返し間隔を秒単位で指定します。
 <値形式> S(秒) <値範囲> 0 ~ 9999
 終了方法
 繰返しの終了方法として以下のいずれかを指定します。
 回数
 回数を指定します。
 <値形式> N(回) <値範囲> 0 ~ 9999
 時刻
 上限時刻を指定します
 <値形式> HH:MM:SS (時:分:秒)
 N
 繰返しで実行されたジョブを監視しない場合に指定します。
 省略時は全て監視します。
 その他のパラメータについては、JMSS本体のオンラインヘルプや、ユーザーズマニュアルの「JCMD」コマンドの説明を参照してください。

終了コード 正常終了 実行ジョブの終了コードを返却します。
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ JLook業務投入権、ジョブキューセキュリティ

例： Job.exe を1分毎に10回投入します。また、Job2.exe を10分毎に23：30まで投入します
 (周期ジョブを監視しません)。

```
JJCmd.bat
JJCmd.exe /x:60, 10 Job.exe
JJCmd.exe /x:600,23：30：00,N Job2.exe
```


JShowDlg

JShowDlg.exe は任意のメッセージをダイアログで表示します。任意のメッセージには、テキストファイルの内容も指定できます。

構文 JShowDlg.exe [/d:ダイアログタイプ] [/t:"タイトル"]
[/o:タイムアウト時間] [/a] [/n] [/f]
“メッセージ文字列” | “ファイル名”

パラメータ

/d: **ダイアログタイプ**
以下のいずれかを指定します。
省略時はYESNOダイアログとなります。
yesno [はい] [いいえ] ボタンのダイアログ。
okcancel [OK] [キャンセル] ボタンのダイアログ。
ok [OK] ボタンのみのダイアログ。

/t: **"タイトル"**
ダイアログのタイトル名を指定します。
省略時は規定のタイトル"JShowDlg"となります。

/o: **タイムアウト時間**
タイムアウトまでの時間を分単位で指定します。
省略時はタイムアウトしません。
<値形式> N(分) <値範囲> 1 ~ 59

/a
ダイアログを常に手前に表示します。

/n
右側のボタン ([いいえ] または [キャンセル] ボタン) をデフォルトにします。
省略時は左側のボタン ([はい] または [OK] ボタン) がデフォルトです。

/f
テキストファイル内容を表示する場合に指定します。
存在しない場合またはオープンできない場合、エラーにはなりません。

"メッセージ" | "ファイル名"
表示するメッセージを指定します。
/f オプション時にはテキストファイル名とみなし、その内容を表示します。

終了コード	正常終了	以下のいずれかの値を返却します。 1 左側のボタン（[はい] または [OK] ボタン）が選択されました。 2 右側のボタン（[いいえ] または [キャンセル] ボタン）が選択されました。 3 タイムアウトしました。（/o オプション時）
	異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： A.txt ファイルが存在しない場合ダイアログを表示し、[はい] が選択またはタイムアウトの時再度ファイルを検索します。その後、A.txt ファイルが存在した場合には、A.txt の内容をダイアログに表示します。

JShowDlg.bat

```
:loop
IF EXIST A.txt GOTO showtxt
JShowDlg.exe /t:"確認！" /o:1 "A.txt が存在しません。 再検索しますか？"
SET DlgRtn=% ERRORLEVEL%
IF "%DlgRtn%"=="1" GOTO loop
IF "%DlgRtn%"=="3" GOTO loop
EXIT
:showtxt
JShowDlg.exe /d:ok /a /f "A.txt"
EXIT
```

JShutd

JShutd.exe は指定したマシンのシャットダウン、シャットダウン後再起動、およびシャットダウンの取消しを行います。

このコマンドは、Shutdown 権限を持つユーザで実行してください。

構文 JShutd.exe [/force] [/w:待ち秒数] 種別 マシン名 ["メッセージ"]

パラメータ /force

強制シャットダウンを行います。

/w: 待ち秒数

シャットダウンが開始されるまでの値を秒単位で指定します。

省略時は20秒待ちます。

シャットダウンを待っている間は指定先のマシンにダイアログが表示されます。

<値形式> N(秒)

種別

シャットダウン種別として以下のいずれかを指定します。

s 通常シャットダウンを行います。

r シャットダウン後再起動を行います。

c シャットダウン待ちの場合に、シャットダウンの取消しを行います。

マシン名

対象とするマシン名を指定します。

Windows NT/2000以外のマシンは無効です。

“メッセージ”

シャットダウン待ちの間に表示されるダイアログにメッセージを表示する場合に指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例: copyコマンドが正常に終了した場合、Machine1というマシンの強制シャットダウンが開始されます。

JShutd.bat

jcnd /o cmd.exe /c copy c.dat d.dat

IF NOT ERRORLEVEL 0 EXIT

JShutd.exe /force /w:20 s [¥¥Machine1](#)

JSleep

JSleep

JSleep.exe は指定時間、スリープします。

構文 JSleep.exe *スリープ秒数*

パラメータ *スリープ秒数*
 スリープする時間を秒単位で指定します。
 <値形式> N(秒)

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： エラーが発生するまで10秒間隔でジョブの投入を行います。

```
JSleep.bat
:loop
jcmd /o cmd /c dir
IF NOT ERRORLEVEL 0 EXIT
JSleep.exe 10
GOTO loop
```

JVbCode

JVbCode.exe は Visual Basic 等より出力されたテキストファイルの内容を終了コードと判別して終了します。

構文 JVbCode.exe [/u] “ファイル名”

パラメータ /u

 ファイルを削除しない場合に指定します。

 省略時は削除します。

 “ファイル名”

 終了コードを保存したテキストファイル名を指定します。

 終了コードは、ファイルの 1 行目に -2147483648 ~ 2147483647 の 10 進数で指定してください。

終了コード 正常終了 0

 異常終了 「第 3 章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 Visual Basic からファイルを出力する場合は、“JVbCode.bas”をプロジェクトに追加し、関数 JVbCode を呼び出してください。

Public Function JVbCode(*caFileName* As String, *dwExitCode* As Long)As long

caFileName : 終了コード保存先ファイル名

dwExitCode : 終了コード

 関数値 : True 正常

 True 以外 エラー

 62 指定したファイルが作成できません

 63 出力に失敗しました(例：空き容量がありません)

例： Visual Basic で作成した vbtest.exe の終了コードが 0 の場合は正常とみなして copy コマンドを実行します。1 以上の場合は異常とみなして copy コマンドを実行せず終了します。

JVbCode.bat

 jcmd vbtest.exe vbcode.tmp

 JVbCode.exe vbcode.tmp

 IF ERRORLEVEL 1 GOTO error

 jcmd cmd /c copy a.dat b.dat

 :error

・ JVbCode.bat が強制終了された場合、vbcode.tmp が残る場合があります。

・ vbtest.exe と JVbcode.exe が別のマシンで実行される場合は、vbcode.tmp は UNC 名(¥¥ マシン名 ¥共有名 ¥ファイル名) で指定してください。

・ JVbCode.bat が複数同時に実行された場合、vbcode.tmp に同時に出力される可能性があるため、正常に動作しない場合があります。

JWaitT

JWaitT

JWaitT.exe は指定された時刻まで待ち合わせを行います。

構文 JWaitT.exe [/t:経過判別時間] [/l:タイムアウト時間] 待ち時刻

パラメータ /t:経過判別時間

既に経過していると判別する時間を分単位で指定します。
現在時間と待ち時刻の差が経過判別時間以内の場合、過ぎていたとみなして終了コード71で終了します。
省略時は起動時に指定時刻が過ぎていても、次の指定時刻になるまで待ちます。

<値形式> N(分)

/l:タイムアウト時間

タイムアウト時間を分単位で指定します。
省略時はタイムアウトしません。

<値形式> N(分)

待ち時刻

待ち合わせる時刻を指定します。

<値形式> HH:MM(時:分)

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： Job1.exe投入後、正常終了なら10:00まで待ってJob2.exeを投入します。

JWaitT.bat

```
jcmt /o Job1.exe a.dat b.dat
IF NOT ERRORLEVEL 0 EXIT
JWaitT.exe 10:00
jcmt /o Job2.exe c.dat d.dat
```

2.4 JMSS サービス関連コマンド

JChkSrv

JChkSrv.exe はサービス（JMSS 関連サービスを含む）の状態を監視します。

構文 JChkSrv.exe [/m: マシン名] [/t:監視間隔] [/s] [監視種別]
 “サービス表示名” | サービス名

パラメータ /m: マシン名
 監視するサービスがあるマシン名を指定します。
 省略時はローカルコンピュータのサービスを監視します。

 /t: 監視間隔
 サービスの状態を監視する間隔を秒単位で指定します。
 省略時や0を指定時はその時点でのステータスを取得しすぐに終了
 します。
 <値形式> N(秒)

 /s
 指定されたサービス表示名をサービス名とみなします。

 監視種別
 監視種別として以下のいずれかを指定します。
 start 開始を感知するまで待ちます。
 stop 終了を感知するまで待ちます。

 “サービス表示名” | サービス名
 監視するサービスのサービス表示名、またはサービス名(/s オプショ
 ン時)を指定します。

終了コード 正常終了 以下のいずれかの値を返却します。

 2 開始しています。

 3 停止しています。

 4 開始中です。(/t:0 オプション時のみ)

 5 停止中です。(/t:0 オプション時のみ)

 6 再開中です。(/t:0 オプション時のみ)

 7 一時停止中です。(/t:0 オプション時のみ)

 8 一時停止しています(/t:0 オプション時のみ)

 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

備考 サービスのステータスはコントロールパネル サービスで表示されるステータスを取得しているものであり、ストール等の状態は感知できません。
 マシンの接続やステータスの取得に失敗した場合、約2分間リトライを行います。
 コマンド実行ユーザとして、サービスを制御可能なユーザ権限が必要です。
 コマンドの利用範囲は同ドメイン、もしくは信頼関係を結んだドメイン間で利用可能です。

例： Server1のESMPRO/JMSS JLook Serviceサービスが停止してからJob.exe を実行します(監視間隔1分)。

JChkSrv.bat

```
JChkSrv /m:Server1 /t:60 stop "ESMPRO/JMSS JLook Service"
```

```
Job.exe
```

```
exit
```

ローカルマシンのESMPRO/JMSS JLook Serviceサービスが実行中であった場合のみJob2.exeを実行します。それ以外のときは何もしないで終了します。

```
JChkSrv "ESMPRO/JMSS JLook Service"
```

```
IF %ERRORLEVEL% EQU 2 GOTO running
```

```
GOTO end
```

```
:running
```

```
Job2.exe
```

```
:end
```

```
EXIT
```


JCt | Srv

JCtlSrv.exe は指定されたマシンのサービスの制御を行います。

構文 JcTlSrv.exe [/m: マシン名] [/s 制御要求種別
“サービス表示名” | サービス名

パラメータ /m: マシン名

制御するサービスがあるマシン名を指定します。
省略時はローカルコンピュータのサービスを制御します。

/s/

指定されたサービス表示名をサービス名とみなします。

制御要求種別

制御種別として以下のいずれかを指定します。

start	停止中のサービスを開始します。
-------	-----------------

stop 開始中のサービスを停止します。

pause 実行中のサービスを一時停止します。

continue 一時停止中のサービスを再開します。

status	サービスの状態を表示します。
--------	----------------

“サービス表示名” | サービス名

制御するサービスのサービス表示名(“net start” コマンドまたはコントロールパネルのサービスで表示される名前)を指定します。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： 8:00-17:00の間だけ、Service 1 サービスを起動します。

```
JCtlSrv. bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JCtlSrv.exe start Service1
JWaitT.exe 17:00
JCtlSrv.exe stop Service1
GOTO loop
```

2.3 JMSS 環境関連コマンド

JChgEnvL

JChgEnvL.exe は JLook サービスの環境情報を表示/設定します。

構文 JChgEnvL.exe [/s:サーバ名] [環境情報名 設定値 [設定値...]]

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

環境情報名 設定値 [設定値...]

環境情報名と設定値を以下の形式で指定します。

省略時は以下の全環境情報を表示します。

の項目は、JLookサービス再起動後に有効になります。

log 設定値

最大ログ件数を指定します。

<値形式> N0000(件) 1000単位で指定

<値範囲> 1000~10000

1000~50000(Enterprise Edition時)

wsemI 設定値

WS-EMLジョブ監視有無フラグとして以下のいずれかを指定します。

Off 監視しない

On 監視する

perf 設定値

パフォーマンスデータ取得間隔を秒単位で指定します。

<値形式> N(秒)

<値範囲> 10 ~ 3600(0:監視しない)

logdir “ディレクトリ名”

ログファイル作成ディレクトリを指定します。

stdDir “UNCパス名”

標準出力ファイル保存先パス名を指定します。

UNC名で指定してください。

jobjd **設定値**
 ジョブ起動方式として以下のいずれかを指定します。
 s サーバインストールユーザアカウントで起動
 u ログオンユーザアカウントで起動
hjob **設定値 [設定値...]**
 保留ジョブの取扱いについて以下を指定します。
 複数指定が可能です。
 u ログオンユーザアカウントで起動
 Allexec 全て起動
 Onlysch スケジュールジョブのみ起動
 Alldel 全て削除
chkwm **設定値**
 稼動マシンチェック間隔時間を秒単位で指定します。
 <値形式> N(秒)
 <値範囲> 10 ~ 600 (0:チェックしない)
hjobkeep **設定値**
 保留ジョブ保存期間を日単位で指定します。
 <値形式> N (日) <値範囲> 0 ~ 10

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権
 変更時 セキュリティ設定権

例： バッチファイルに指定された全JMSSサーバに対してログ件数を10000件に設定します。

```

JchgEnvL.bat
: Loop
IF "%1" == "" EXIT
JChgEnvL.exe /s:%1 log 10000
SHIFT
GOTO loop
  
```

JChgEnvS

JChgEnvS.exe は JSchedule サービスの環境情報を表示/設定します。

構文 JChgEnvS.exe [/s:サーバ名] [環境情報名 設定値 [設定値...]]

パラメータ /s:サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

環境情報名 設定値 [設定値...]

以下の形式で指定します。

省略時は以下の全環境情報を表示します。

expire 設定値

保存期間を日単位で指定します。

<値形式> N(日) <値範囲> 1 ~ 10

notify 設定値 [設定値...]

投入通知設定の値として以下を指定します。

複数指定が可能です。

s 成功通知を行います。

f 失敗通知を行います。

ntime 設定値 [設定値...]

積み残しジョブ通知タイミングの値として以下を指定します。複数指定が可能です。

start サービス起動時に通知します

指定時間 指定時間に通知します。

<値形式> HH:MM (時:分)

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権

変更時 セキュリティ設定権

例: バッチファイルに指定された全JMSSサーバに対して投入成功通知/失敗通知を行うように設定します。

```
JChgEnvS.bat
:loop
IF "%1" == "" EXIT
JChgEnvS.exe /s:%1 notify s f
SHIFT
GOTO loop
```

JChgQue

JChgQue.exe は、ジョブキューまたは稼働マシンの追加と削除を行います。

構文	JChgQue.exe	[/s:サーバ名] [種別] /m:稼働マシン名 /q:ジョブキュー名 [マシン名 [マシン名...]]
パラメータ	/s:サーバ名	JMSSサーバ名を指定します。 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。
	種別	動作種別として以下のいずれかを指定します。 省略時は追加(/aオプション)となります。 /a 追加します。 /d 削除します。
	/q:ジョブキュー名	ジョブキュー名を指定します。
	マシン名 [マシン名...]	/qで指定したジョブキューに関連付ける稼働マシン名を指定します。
	/m:稼働マシン名	稼働マシン名を指定します。
終了コード	正常終了 0 異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。
セキュリティ	変更時	セキュリティ設定権
備考		ジョブキューの新規作成時は、状態「開」、ジョブキュー多重度/優先度、リトライ回数/間隔は既定値が登録されます。これらを変更するには、JQueueコマンドを利用してください。 稼働マシンの新規作成時、マシン多重度は既定値で登録されます。マシン多重度を変更するには、JQueueコマンドを利用してください。 ジョブキューの関連マシンは既に登録済みの稼働マシン名を指定してください。登録されていないマシン名を指定した場合、そのマシンは登録されませんが、コマンドは正常終了します。 ジョブキューの関連マシンが不正である等の理由で関連マシンが0台の場合には状態が「閉」で登録されます。 既に存在するジョブキュー、稼働マシンを指定した場合には、コマンドは異常終了します。

例： Que1というジョブキューを追加し、稼働マシンSrv1とSrv2を関連付けます。

```
JChgQue.bat
JChgQue.exe /a /m:Srv1
JChgQue.exe /a /m:Srv2
JChgQue.exe /a /q:Que1 Srv1 Srv2
```

JChgSrv

JChgSrv.exe は JMSS 内に保存されている JMSS サーバ名情報を新しいサーバ名に変更します。

構文 JChgSrv.exe *旧マシン名 新マシン名*

パラメータ *旧マシン名*
 変更前のJMSSサーバ名を指定します。
 新マシン名
 変更後のJMSSサーバ名を指定します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 OS でサーバ名の変更を行った後、このコマンドを使用してください。
 変更中は JLook サービスが停止されます。

例： JMSS サーバ名を JMSS 1 から JMSS2 に変更します。
 JChgSrv.bat
 JChgSrv.exe JMSS1 JMSS2

JChgStd

JChgStd.exe は現在の標準出力保存先ディレクトリに保存されている標準出力保存ファイルを指定されたディレクトリに移動し、ログファイル内の標準出力保存ファイル情報も変更します。また JMSS 内に設定されている標準出力保存先ディレクトリ情報も指定されたディレクトリに変更します。

構文 JChgStd.exe “変更先ディレクトリ名”

パラメータ “変更先ディレクトリ名”
 新しい標準出力保存先ディレクトリ名をUNC形式(¥¥マシン名¥共有名)で指定します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 変更中はJLookサービスが停止されます。

例： 標準出力保存先ディレクトリを¥¥JMSS1¥JMSOUT2(JMSS1というマシンのJMSOUT2という共有ディレクトリ)に変更します。

JChgStd.bat

JChgStd.exe ¥¥JMSS1¥JMSOUT2

JQueue

JQueue.exe はジョブキューの情報を表示/設定します。

構文 JQueue.exe [/s:サーバ名] [情報種別 [キュー設定値 | マシン設定値]]

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

情報種別

情報種別として以下のいずれかを指定します。

省略時は全てのジョブキューの情報を表示します。

ジョブキュー名

ジョブキュー名を指定します。

/m マシン名

マシン名を指定します。

設定値(キュー情報)

設定するジョブキュー状態を以下から指定します。

情報種別に「ジョブキュー名」を指定した場合の設定値です。

省略時は現状のジョブキュー情報を表示します。

open

ジョブキューを”開”状態にします。

close

ジョブキューを”閉”状態にします。

olmt 多重度数

ジョブキュー多重度を指定します。

<値形式> N

<値範囲> 1 ~ 100 1 ~ 200(Enterprise Edition使用時)

opl 優先度

ジョブキュー優先度を指定します。

<値形式> N <値範囲> 1 ~ 16

qrtc 回数

リトライ回数を指定します。

<値形式> N(回) <値範囲> 1 ~ 10

qrti 間隔時間

リトライ間隔時間を分単位で指定します。

<値形式> N(分) <値範囲> 1 ~ 999999999

設定値(マシン情報)

設定したいマシン情報を以下から指定します。

情報種別に「/m マシン名」を指定した場合の設定値です。

省略時はマシン情報を表示します。

mlmt 多重度

マシン多重度を指定します。

<値形式> N

<値範囲> 0 ~ 100 (0: 多重度指定なし)

0 ~ 200(Enterprise Edition使用時)

終了コード	正常終了	0
	異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ	表示時	JMSS利用権
	設定時	セキュリティ設定権

例： 8:00から17:00の間のみ、Que1というジョブキューの状態を"開"にします。
 12:00から13:00の間は、Que1というジョブキュー多重度を"10"にします。

```
JQueue.bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JQueue.exe Que1 open
JQueue.exe Que1 qlmt 100
JWaitT.exe 12:00
JQueue.exe Que1 qlmt 10
JWaitT.exe 13:00
JQueue.exe Que1 qlmt 100
JWaitT.exe 17:00
JQueue.exe Que1 close
GOTO loop
```

Serverというマシンのマシン多重度を10にします。

```
JQueue.exe /m Server mlmt 10
```

JScrEnv

JScrEnv.exe は「JEnv 運用環境設定」からは変更できない JMSS の環境情報を変更します。

構文 JScrEnv.exe パラメータ種別 設定値

パラメータ パラメータ種別 設定値

変更する情報の種別を指定します。

queue 設定値

最大キュー数を指定します。

<値形式> NN <値範囲> 26 ~ 52

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権

変更時 セキュリティ設定権

備考 変更した値は、JLookサービスを再起動後、有効となります。
値を拡大した場合は、その分使用メモリが増加します。

例： ジョブキューの最大数を26に変更後、JLookサービスを再起動します。

JScrEnv.bat

JScrEnv.exe queue 26

IF NOT ERRORLEVEL 0 EXIT

JCtlSrv.exe /s stop JmssScsv

JCtlSrv.exe /s stop JmssLksv

JCtlSrv.exe /s start JmssLksv

JCtlSrv.exe /s start JmssScsv

JVer

JVer.exe は JMSS の製品情報、JMSS インストールファイル情報、キュー情報、稼動マシン情報を表示します。

構文 JVer.exe [情報種別 [情報種別...]]

パラメータ 情報種別 [情報種別...]

情報種別として以下を指定します。

省略時は、JMSS製品情報(/jオプション)を表示します。

/a

全ての情報を表示します。

/j

JMSS製品情報を表示します。

/f

JMSSインストールファイル情報をdirコマンドと同形式で表示します。

/q

キュー情報を表示します。
(JMSSサーバ上でのみ有効です)

/m

稼動マシン情報を表示します。
(JMSSサーバ上でのみ有効です)

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： バッチファイルの引数1に指定されたファイル(UNC名で指定してください)に、引数2以降に指定されたJMSSサーバおよび稼動マシンのJMSS製品情報を格納します。

JVer.bat

```
:loop
```

```
IF "%2" == " " EXIT
```

```
jcmt /q:%2 /a:%1.tmp JVer.exe SHIFT
```

```
GOTO loop
```

2.5 ジョブ情報関連コマンド

JClrLog

JClrLog.exe は JMSS のログ情報を初期化します。また標準出力内容保存ファイルの削除も行えます。

構文 JClrLog.exe [/s]

パラメータ /s

標準出力内容保存先ディレクトリの全ファイルを削除します。
省略時には削除しません。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ セキュリティ設定権

備考 変更中はJLookサービスが停止されます。

例： 毎日6:00にログ情報と標準出力保存先ディレクトリをクリアします。

```
JCtlSrv.bat
:loop
JWaitT.exe 06:00
JClrLog.exe /s
JCtlSrv.bat
GOTO loop
```

JCsvLog

JCsvLog.exe は指定された範囲内で JLook ログを CSV 出力します。

構文 JCsvLog.exe [/s:サーバ名] [/sd:開始日付] [/ed:終了日付]
 [/f:出力種別] [/j:ジョブ番号] ["ファイル名"]

パラメータ

/s: サーバ名
接続先サーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/sd: 開始日付
出力範囲の開始日付を指定します。
省略時はログの先頭から出力します。
<値形式> YYYY/MM/DD(西暦/月/日)

/ed: 終了日付
出力範囲の終了日付を指定します。
省略時はログの最後まで出力します。
<値形式> YYYY/MM/DD(西暦/月/日)

/f: 出力種別
出力種別として以下のいずれかを指定します。
省略時はすべてのジョブ情報を出力(/aオプション)します。
e 終了ジョブのみ出力
a 実行中を含むすべてのジョブを出力

/j: ジョブ番号
出力を開始するジョブ番号を指定します。
省略時は該当するすべてのログを出力します。
<値範囲> 1 ~ 2,147,483,647

" ファイル名"
出力ファイル名を指定します。
既にファイルが存在する場合、上書きします。
省略時には画面に表示します。

終了コード	正常終了	0
	異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ	参照時	JMSS利用権
	変更時	セキュリティ設定権

例： 毎日23:59に、JLOOKログをCSVファイルに出力し、当日のジョブの実行結果を保存します。

```
JCsvLog.bat
:LOOP
JWaitT.exe 23:59
JGetDay.exe /y
SET RY=% ERRORLEVEL%
JGetDay.exe /m
SET RM=% ERRORLEVEL%
JGetDay.exe /d
SET RD=% ERRORLEVEL%
SET RtnDate = % RY%/% RM%/% RD%
JCsvLog.exe /sd:%RtnDate% /ed:%RtnDate% C:\JLook.csv
goto LOOP
```

JGetStd

JGetStd.exe は指定されたジョブの標準出力を取得し、ファイルまたは画面に出力します。

構文 JGetStd.exe [/s:サーバ名] /j:ジョブ番号 [/t:"業務名" ["ファイル名"]]

パラメータ /s:サーバ名
接続先サーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/j:ジョブ番号
取得するジョブのジョブ番号を指定します。
<値範囲> 1 ~ 2,147,483,647

/t:"業務名"
取得するジョブの業務名を指定します。
同一の業務名が複数ある場合、最新のジョブが優先されます。

"ファイル名"
出力ファイル名を指定します。
省略時には画面に表示します。

終了コード 正常終了 0
異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 参照時 JMSS利用権
変更時 セキュリティ設定権

例: SERVER1 というJMSSサーバ上のジョブ番号が 777番のジョブの標準出力ファイル内容を画面に表示します。

JGetStd.bat

JGetStd.exe /j:777 /s:SERVER1

業務名が「日時処理」という名前のジョブの標準出力ファイル内容をSERVER1という名前のサーバのJMSOUTという共有ディレクトリにresult.txt という名前で出力します。

JGetStd.bat

JGetStd.exe /t:"日時処理" "%SERVER1%\JMSOUT\result.txt"

2.6 スケジュール関連コマンド

JChgEvt

JChgEvt.exe は指定されたイベント起動 ID のイベント起動を即実行します。

構文 JChgEvt.exe [/s:サーバ名] #イベント起動ID

パラメータ /s:サーバ名
JMSSサーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。
#イベント起動ID
イベント起動IDを指定します。

終了コード 正常終了 0
異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
イベントIDはJDispEvtコマンドで確認してください。

例: バッチファイルの引数に指定されたイベント起動IDのイベント起動をMachine1、Machine2で即実行します。

JChgEvt.bat

JChgEvt.exe /s:Machine1 %1 %2

JChgEvt.exe /s:Machine2 %1 %2

JChgEvt2

JChgEvt2.exe は指定された業務名に該当するイベント起動を即時実行します。

構文 JchgEvt2.exe [/s:サーバ名] [/a] /t:"業務名"

パラメータ /s:サーバ名
JMSSサーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/a
該当するイベント起動が複数存在する場合、全てを即実行します。
省略時に該当するスケジュールが複数存在した場合、エラーとなります。

/t:"業務名"
イベント起動の業務名を指定します。

終了コード 正常終了 0
異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
指定された業務名に該当するイベント起動が複数存在し、かつ/aオプションを指定していない場合にはエラーとなります。

例: バッチファイルの引数に指定された業務名に該当するイベント起動全てをMachine1,Machine2で即実行します。

JChgEvt2.bat

JChgEvt2.exe /s:Machine1 /a /t:%1

JChgEvt2.exe /s:Machine2 /a /t:%1

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
スケジュールID/サブIDはJDispSchコマンドで確認してください。

例： バッチファイルの引数に指定された日付、ID、サブIDのスケジュールをマシン名 Machine 1 , Machine2のJMSSサーバで即実行します
JChgSch.bat

```
JChgSch.exe /s:Machine1 /f /o:%1 %2 %3
```

```
JChgSch.exe /s:Machine2 /f /o:%1 %2 %3
```


セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
指定された日時、業務名に該当するスケジュールが複数存在し、かつ/aオプションを指定していない場合にはエラーとなります。

例： バッチファイルの引数に指定された日付、業務名に該当するスケジュールをマシン名Machine 1 , Machine2のJMSSサーバで即実行します。

JChgSch2.bat

JChgSch2.exe /s:Machine1 /a /o:%1 /t:%2

JChgSch2.exe /s:Machine2 /a /o:%1 /t:%2

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例： 毎日6:00に、スケジュール/指定されたカレンダー/イベント起動データのバックアップを取ります。

JCsvSch.bat

```
:loop
JWaitT.exe 06:00
JCsvSch.exe /so schdat.csv
JCsvSch.exe /ho: " %1 " schcal.csv
JCsvSch.exe /eo schevt.csv
GOTO loop
```

JDispCal

JDispCal.exe は指定されたカレンダーデータを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispCal.exe [/s:サーバ名] [/d:表示年月] “カレンダー名”

パラメータ /s:サーバ名
 JMSSサーバ名を指定します。
 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。
 /d:表示年月
 表示する年月を指定します。
 省略時は今月のデータが表示されます。
 <値形式> YYYY/MM (西暦/月)
 “ カレンダー名 ”
 表示するカレンダー名を指定します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例： バッチファイルの引数に指定された名前のカレンダーデータをMachine1、Machine2から参照し、表示します。

JDispCal.bat

JDispCal.exe /s:Machine1 %1

JDispCal.exe /s:Machine2 %1

JDispEvt

JDispEvt.exe は指定されたイベント起動データを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispEvt.exe [/s:サーバ名] [/i:項目[,項目,...]] [/nh]
#イベント起動ID

パラメータ /s:サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/i:項目[,項目,...]

表示する項目を以下から指定します。(表示順序は固定です)

省略時は の項目が表示されます。

id : イベント起動ID : 1イベント起動登録毎に付けられる番号

te : トリガイイベント

fl : 有効フラグ

tl : 業務名

jn : ジョブ名

dr : ディレクトリ

jp : パラメータ

jq : ジョブキュー

tr : 期間(開始日/終了日)

un : ユーザ名

ot : 標準出力監視

pr : 優先順位

mc : マシン名

of : 標準出力ファイル

om : 標準出力モード

to : 実行時間タイムアウト

ex : 排他業務名

lt : 前回受信日時

lt : 前回受信イベント

al : 上記すべて

/nh

ヘッダ行を表示しない場合指定します。

#イベント起動ID

指定したイベント起動IDのデータをブロック表示します。

終了コード	正常終了	0
	異常終了	「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。
セキュリティ	スケジュール利用権	
備考	1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。 また、スケジュールが参照されている場合もスケジュール関連コマンドを使用することはできません。	

例： バッチファイルの引数に指定されたマシンのイベント起動データを表示します。

```
JDispEvt.bat
:loop
IF " %1 " == " " EXIT
JDispEvt.exe /s:%1
SHIFT
GOTO loop
```

JDispSch

JDispSch.exe はスケジュールデータを表示(標準出力に出力)します。

構文 JDispSch.exe [/s:サーバ名] [/i:項目[,項目,...]] [/nh] 表示種別

パラメータ /s: サーバ名

JMSSサーバ名を指定します。

省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/i: 項目[, 項目...]

表示する項目を以下から指定します。(表示順序は固定です)

省略時は 項目が表示されます。

id : ID : 1イベント起動登録毎に付けられる番号
 si : サブID (1スケジュールで起動日付毎に付けられる番号)
 do : 投入状態(成功/失敗/未投入)
 dt : 日付
 tm : 時間
 tl : 業務名
 jn : ジョブ名
 jp : パラメータ
 dr : ディレクトリ
 jq : ジョブキュー
 tr : 期間(開始日/終了日)
 un : ユーザ名
 ot : 標準出力監視
 pr : 優先順位
 mc : マシン名
 sh : 振替
 fq : 周期
 Of : 標準出力ファイル
 Om : 標準出力モード
 To : 実行時間タイムアウト
 No : ± n 日指定
 Ex : 排他業務名
 Cl : カレンダー(カレンダー名/カレンダーフラグ)
 nt : 通知条件
 yj : 未起動時実行ジョブ(全ての項目)
 so : 振替実行オプション
 al : 上記すべて

/nh

ヘッダ行を表示しない場合指定します。

表示種別

表示する種別を以下のいずれかを指定します。
省略した場合、指定日（今日）となります。

指定日

指定日付のスケジュールデータを表示します。
<値形式> [YYYY]/MM/DD ([西暦]/月/日)

Master

全てのスケジュールデータを表示します。

#ID

指定IDのデータをブロック表示します。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。

例： 毎日6:00に本日のスケジュールの存在を確認して、スケジュールがあった場合はファイルのコピーを行います。

```
JDispSch.bat
:loop
JWaitT.exe 06:00
JDispSch.exe
IF ERRORLEVEL 50 GOTO error
IF ERRORLEVEL 21 GOTO nosch
jcmd cmd /c copy a.dat b.dat
GOTO loop
:nosch
ECHO “スケジュールデータはありません”
GOTO loop
:error
ECHO “エラーが発生しました”
GOTO loop
```

JSEvt

JSEvt.exe は指定されたイベント起動 ID のイベント起動の有効/無効を設定します。

構文 JSEvt.exe [/s:サーバ名] #イベント起動ID スイッチ

パラメータ /s:サーバ名
 JMSSサーバ名を指定します。
 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。
 #イベント起動ID
 設定するイベント起動のIDを指定します。

 スイッチ
 設定状態として以下のいずれかを指定します。
 on イベント起動を有効にします。
 off イベント起動を無効にします。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 イベントIDはJDispEvtコマンドで確認してください。

例： 08:00から17:00の間だけ、ID1のイベント起動を有効にします。

```
JSEvt.bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JSEvt.exe #1 on
JWaitT.exe 17:00
JSEvt.exe #1 off
GOTO loop
```

JSwEvt2

JSwEvt2.exe は指定された業務名に該当するイベント起動の有効/無効を設定します。

構文 JSwEvt2.exe [/s:サーバ名] [/a] /t:"業務名" スイッチ

パラメータ /s:サーバ名
 JMSSサーバ名を指定します。
 省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

 /a
 該当するイベント起動全てに設定します。
 省略時に該当するイベントが複数存在した場合、エラーとなります。

 /t:"業務名"
 設定するイベント起動の業務名を指定します。

 スイッチ
 設定状態として以下のいずれかを指定します。
 on イベント起動を有効にします。
 off イベント起動を無効にします。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ スケジュール利用権

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にスケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 また、スケジュールが参照されている場合も、スケジュール関連コマンドを使用することはできません。
 指定された業務名に該当するイベント起動が複数存在し、かつ/aオプションを指定していない場合にはエラーとなります。

例： 08:00から17:00の間だけ、業務名が"JOB"のイベント起動全てを有効にします。

```
JswEvt2.bat
:loop
JWaitT.exe 08:00
JSwEvt2.exe /a /t:"JOB" on
JWaitT.exe 17:00
JSwEvt2.exe /a /t:"JOB" off
GOTO loop
```

2.7 JMenu 関連コマンド

JChgJmn

JChgJmn.exe はメニューファイル内の文字列を一括置換します。

構文	JChgJmn.exe	[/q] [/i:項目[,項目...]] “メニューファイル名”	“置換文字列”	“置換後文字列”
----	-------------	-------------------------------------	---------	----------

パラメータ /q

置換時に、毎回確認入力待ちとなります。
確認入力時には以下のいずれかを入力してください。

y 置換します。

S 置換せず、次を検索します。

a 現在の位置以降の置換文字列を全て置換します。
(確認メッセージは表示されません)

c 置換を中断します。

/i:項目[,項目...]

置換対象とする項目を以下から選択します。
省略時は全項目が置換対象となります。

t | : 業務名

jn : ジョブ名

jp : パラメータ

dr : ディレクトリ

qn : ジョブキュー

if : アイコンファイル名

of : 標準出力保存先ファイル名

bf : ビットマップファイル名

“置換文字列”

置換したい文字列を指定します。

“メニューファイル名”

置換するメニューファイル名を指定します。
ワイルドカードも指定可能です。

終了コード 正常終了 0

異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： バッチファイルの引数に指定されたメニューファイルを各項目毎に一括置換します。

JChgJmn.bat

JChgJmn.exe /i:jn ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS2 %1

JChgJmn.exe /i:dr ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS3 %1

JChgJmn.exe /i:qn JMSS1 JMSS4 %1

JJmnEnv

JJmnEnv.exe はユーザ毎のメニュー環境を表示/設定します。

構文 JJmnEnv.exe [/s:サーバ名] [/u:ユーザ名] ["メニューファイル名"]

パラメータ /s:サーバ名
JMSSサーバ名を指定します。
省略時はデフォルトのJMSSサーバとなります。

/u:ユーザ名
表示/設定するユーザ名を指定します。
省略時は現在のユーザ名になります。

"メニューファイル名"
初期メニューファイルとするメニューファイル名を指定します。
省略時は現在設定されているメニューファイル名を表示します。

終了コード 正常終了 0
異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ	現在のユーザの環境情報参照時	JMSS利用権
	現在のユーザの環境情報設定時	メニュー作成/更新権
	他のユーザの環境情報参照時	セキュリティ設定権

例： バッチファイルの引数に指定された全ユーザのメニュー環境を変更します。

```
JJmnEnv.bat
:loop
IF "%1" == "" EXIT
JJmnEnv.exe /u:%1 ¥¥JMSS1¥JOB¥JOBMENU.JMN
SHIFT
GOTO loop
```

2.7 ジョブネット関連コマンド

JChgJnt

JChgInt.exe はジョブネットファイル内の文字列を一括置換します。

構文 JChgInt.exe [/q] [/i:項目[,項目...]] “置換文字列” “置換後文字列”
“ジョブネットファイル名”

パラメータ /q

置換時に、毎回確認入力待ちとなります。
確認入力時には以下のいずれかを入力してください。

v 置換します。

S 置換せず、次を検索します。

a 現在の位置以降の置換文字列を全て置換します。
(確認メッセージは表示されません)

C 置換を中断します。

/i:項目[,項目...]

置換対象とする項目を以下から指定します。

省略時は全項目が置換対象となります。

t1 : 業務名

jin : ジョブ名

jp : パラメータ

dr : ディレクトリ

qn : ジョブキュー

of : 標準出力保存先ファイル名

rt : リカバリジョブ業務名

rn : リカバリジョブ名

rp : リカバリジョブパラメータ

rd : リカバリジョブディレクトリ

rq : リカバリジョブジョブキュー名

ro : リカバリジョブ標準出力保存先ファイル名

se : 環境変数名

sf : 存在チェックファイル名

“置換文字列”

置換したい文字列を指定します。

“置換後文字列”

置換後の文字列を指定します。

“ジョブネットファイル名”

置換するジョブネットファイル名を指定します。

ワイルドカードも指定可能です。

終了コード 正常終了 0
 異常終了 「第3章 エラーコード一覧」を参照してください。

セキュリティ 全ユーザ

例： バッチファイルの引数に指定されたジョブネットファイルを各項目毎に一括置換します。

JChgJnt.bat

JChgJnt.exe /i:jn ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS2 %1

JChgJnt.exe /i:dr ¥¥JMSS1 ¥¥JMSS3 %1

JChgJnt.exe /i:qn JMSS1 JMSS4 %1

備考 1台のJMSSサーバに対して、同時にJChgSecコマンドでセキュリティを設定することはできません。
また、すでにJEnvが編集モードで起動されている場合も、JChgSecコマンドでセキュリティを設定することはできません。

例： バッチファイルの引数に指定された全ユーザに全権限を与えます。

JChgSec.bat

```
:loop  
IF"%1"==" " EXIT  
JChgSec.exe %1 ctrl other menu sch throw use  
SHIFT  
GOTO loop
```


第3章 エラーコード一覧

	分類	コード(10進)	コード(16進)	概要
1	Success	0	00000000	正常
2	Warning	20	00000014	入力するデータがありません
3		21	00000015	出力するデータがありません
4	Error	50	00000032	パラメータの指定に誤りがあります
5		51	00000033	JMSS サーバに接続できません
6		52	00000034	JMSS サーバ名が取得できません
7		53	00000035	JMSS がインストールされていません
8		54	00000036	JMSS サーバではありません
9		55	00000037	指定のジョブが存在しません
10		56	00000038	指定されたジョブキューが存在しません
11		57	00000039	指定のマシンが存在しません
12		58	0000003a	指定のマシンに接続できません
13		59	0000003b	指定されたスケジュールがありません
14		60	0000003c	指定された名前のカレンダーがありません
15		61	0000003d	指定されたユーザ/グループは存在しません
16		62	0000003e	指定のディレクトリ/ファイルがありません
17		63	0000003f	空き容量がありません
18		64	00000040	指定されたファイルの内容が不正です
19		65	00000041	セキュリティ情報の取得に失敗しました
20		66	00000042	必要な JMSS セキュリティがありません
21		67	00000043	他ユーザ監視権が無いのに他ユーザのジョブを指定しました
22		68	00000044	WS-EML 環境で投入されたジョブであるので制御不可能です
23		69	00000045	Shutdown 権限がありません
24		70	00000046	処理が完了しませんでした
25		71	00000047	タイムアウトしました
26		72	00000048	他のユーザが使用中なので使用できません
27		73	00000049	登録数の限界値に達しました
28		74	0000004a	過去に一時変更はできません
29		75	0000004b	実行済のため一時変更できません
30		76	0000004c	休止日に一時変更しました
31		77	0000004d	ESMPRO/AC カレンダーの電源OFF 範囲への一時変更です
32		78	0000004e	ジョブキューにジョブが登録されていません
33		79	0000004f	環境を変更できません

ESMPRO®/JMSS® ユーティリティ
(Windows® 2000版)
ユーザーズマニュアル

2001年 7月 初版

日 本 電 気 株 式 会 社
東京都港区芝五丁目7番地1号
TEL(03)3454-1111(大代表)

開発 N E C ソ フ ト 株 式 会 社
東京都江東区新木場1-18-6
TEL(03)5569-3333(大代表)

(C)NEC Corporation/NEC Soft, Ltd.1998-2001

日本電気株式会社の許可なく複製・改編などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。